月14日（金曜日）　洛タイ新報　第20061号　（第三種郵便物認可）

さんさん山城「夏の交流会」

児童生徒、利用者ら心弾む

広がる農福連携　体験ふんだんに

農業×福祉「農福連携」の取り組みを進めるさんさん山城（新免修施設長、藤永実管理者）＝京田辺市興戸＝で、女子児童や生徒と利用者らが様々な体験を共にする「夏の交流会」が開かれ、施設の屋内外が黄色い歓声と笑顔に包まれた。

さんさんでは、農業をはじめ、加工品の製造、コミュニティカフェの運営、地元団体などとの連携を推進。聴覚や知的、精神障害を持つ利用者が日ごろ、農作業、調理などに携わり、加工品販売や商品開発など多岐にわたり農福連携の先駆けとなっている。

府女性活躍応援事業の助成を受けた社会体験事業では、精華町の児童養護施設「京都大和の家」で暮らす小・中・高校生10人が、岡本直彦施設長ら職員とさんさんを訪れ、利用者、スタッフと交歓。晴れ渡った空のもと、ぐんぐんと気温も上昇したこの日、敷地にあるブルーベリー、万願寺トウガラシの収穫を体験した。ふんだんに成ったブルーベリーの実をわいわいと摘み取って、昼休みも楽しむほど熱が入った。

カフェの名物ランチメニューでもある「さんさん夏野菜カレー」に舌鼓を打ち、午後から2班に分かれて、大福（ブルーベリー、抹茶）作りと、玉露の淹れ方を体験した。パンと中身が詰まったブルーベリーの粒を数個ずつ餡に含ませて皮を包み真ん丸に仕上げた子どもたちが出来栄えに胸を張った。

また、お茶の淹れ方を「茶ムライ」こと中坊敏也さん（舞妓の茶本舗、日本茶インストラクター）が手ほどき。「ぬるめで」と急須を使った玉露の味を確かめる児童生徒らに「舌の上で転がして香りを楽しんでみて」とアドバイスし、水出しの手順もひも解いた。

なお、第2回（10月）では、田辺ナス収穫や茶道体験、村木厚子さん（若草プロジェクト代表、元厚労省事務次官）を招く討論会などを予定する。

（先月18日）

玉露はぬるめのお湯で淹れようね

加工場でブルーベリーと抹茶の大福作りに励んだ

久御山のイーコット

消毒液 触れずに噴射

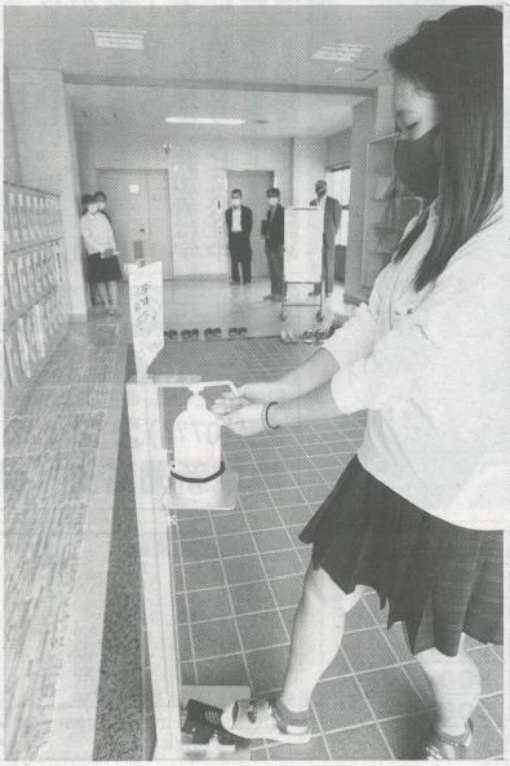
町にスタンド3台寄贈

アルミ型材加工のイーコット㈱は、新型コロナウイルス感染防止に役立ててもらおうと、アルミ製の足踏み式消毒液スタンド3台を、久御山町に寄付した。町は、役場庁舎で1台、久御山中学校で2台活用する。

同社は、久御山町田井で京都工場を稼働している。2017年の「お茶の京都博」エリアイベントに合わせ、町内製造業者の技術を結集した「黄金の茶室」づくりにも参画した。

今回、ものづくりの魅力の発信とコロナ対策の普及に向けて、消毒液スタンドを作製した。足でペダルを踏んでボトルを押し上げる独自構造で、ポンプに手を触れることなく消毒液を噴射できる。

役場で行われた寄贈式で、同社の田邊剛一取締役は「こんなことができると知り、中学生にも『ものづくり』に興味を持ってもらいたい」と期待。「下請けで『もらったものをもらった通り作る』ではなく、レベルを上げて作り、発信していくことが必要」と見据



スタンドを使って手指消毒をする生徒（久御山中）